

令和4年9月20日

学生 各位

岐阜大学副学長（教育・学生支援担当）
岐阜大学教育推進・学生支援機構長
山田 敏弘

令和4年度後学期の生活上の留意点や授業実施方針等について（通知）

本学では、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症への感染予防策として、当初の全館閉鎖から始まり、遠隔授業の導入や新型コロナウイルスワクチンの職域接種など、学生の皆さんのご理解とご協力のもと、様々な対応に取り組んできました。また、令和4年3月及び7月には3回目のワクチン接種を実施し、新型コロナウイルス感染症を克服した大学教育の実施に向け、歩みを進めています。

しかし、ワクチン接種後でも感染リスクが存在するため、適切なマスク着用・手指消毒・3密（密閉空間・密集場所・密接場面）の回避といった基本的な感染予防策は継続する必要があります。

これを踏まえ、令和4年度後学期の授業実施方針と学生生活上の留意点を示しますので、登下校時やキャンパス滞在時等において是非ともご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

【令和4年度後学期の授業実施に係る基本方針】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における岐阜大学の活動指針に則り、大学としての感染リスク管理を徹底したうえで、原則として対面形式にて授業を実施する。また、学生への教育効果を最大化するため、e-Learning形式での教育にも取り組む。

対面形式の授業を受講する際は、必ずマスク（不織布製を推奨）を着用してください。また、起床後に体温を測定し発熱症状や風邪症状がある場合は、所属学部・学環・研究科等の学務担当係へ連絡のうえ、来学せず自宅療養に努めてください。授業を欠席しても履修上の配慮を受けることができます。なお、保健管理センターにて健康相談を受け付けていますので、不安がある場合は連絡してください。

医療機関等において診断の結果、陽性者または濃厚接触者となった場合は、右のQRコードまたは下記URLから「陽性者・濃厚接触者報告入力フォーム」にアクセスし、保健管理センターへ報告するとともに（岐阜大学のアドレスによるログインが必要です）、所属学部・学環・研究科等の学務担当係へも連絡してください。<https://forms.office.com/r/0BbKRFmZA7>



【学生生活を過ごす際の留意事項について】

◆登下校時

- ①起床後に体温を測定するとともに、発熱症状や風邪症状がある場合は、所属学部・学環・研究科等の学務担当係へ連絡のうえ、自宅で安静にすること。
- ②登下校時は公共交通機関を使用する場合において、車内、待ち時間ともに、マスク（不織布製を推奨）を着用し、会話はしないこと。
- ③岐阜駅からバスを利用する際は、早めのバスに乗車するなど、分散乗車を心がけること。

◆キャンパス滞在時

- ①キャンパス滞在時は令和4年6月7日に発出した「学内におけるマスク着用について」（別紙参考資料）に従い、適切にマスク（不織布製を推奨）を着用すること。
- ②キャンパスの滞在時間は必要最小限とすること。
- ③石鹸を使用した手洗いや消毒液による手指消毒をこまめに行うこと。（特に、共有機器

（次頁に続く）

などの使用前後や食事前には必ず手指消毒又は手洗いを行うこと)

- ④ 食事時は他者と距離を空けて着席し、会話はしないこと。

◆ **その他**

- ① 3密（密閉・密集・密接）状態や感染リスクが高まる「5つの場面」（飲食を伴う懇親会等・大人数や長時間におよぶ飲食・マスクなしでの会話・狭い空間での共同生活・居場所の切り替わり）の環境下でのコンパ、ゼミ会等の懇親会や会食等は行わないこと。
- ② 感染者が発生し濃厚接触者の抽出が行われる場合に備え、体調等記録シート（別紙1）を用いて、体温や体調不良の状況、登下校時の行動を記録すること。※別紙1と同様の記録ができるのであれば、他の手段を用いて行動履歴を記録してもよい。

【対面授業受講の際の留意事項について】

- ① 教室入室から退室まで、教室において授業に関係のない不必要な会話はしないこと。
- ② 授業中はマスク（不織布製を推奨）を着用すること。
- ③ 教室内の着席者と着席位置を記録するため、記録に協力すること。
- ④ 密集せず、各自の距離が1 m程度以上離れるよう、留意して着席すること。
- ⑤ 授業受講時に担当教員などから着席場所や換気などの指示があった場合は、それに従うこと。

【感染症や災害発生等の非常時において特例的に実施する遠隔授業（e-Learning 形式の授業）の運営方法について】

- ① 各部局の判断により、新型コロナウイルス感染症感染拡大などの非常時においては、特例として、本来対面形式で行う予定だった授業の一部又は全部を遠隔形式にて行うことも可能とします。その場合は、シラバスに則り授業を行うとともに、シラバスに記載された内容を変更する場合は受講者に周知します。
- ② 学生のネットワーク環境が個々に異なることを鑑み、e-Learning 教育での教材（動画や配付資料など）の閲覧や課題の締め切りなどに十分な期間を設けるなど、配慮を行います。
- ③ Teams や Zoom を用いた双方向配信型授業については、当日通信の断絶等により参加できない場合でもすぐさま欠席とせずに後日録画した様子を確認できるようにするなどの配慮を行います。
- ④ オンデマンド型授業の場合は、対面授業に相当する措置（Ⅰ．設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導及びⅡ．学生の意見の交換の機会の提供の2点）の提供を授業の終了後すみやかに行います。
- ⑤ オンライン上での出席管理や理解度を確認するための課題の提出などにより、授業の参加状況（対面授業における学生の出席状況に相当するもの）が把握されます。
- ⑥ e-Learning になじめない場合や電子媒体での課題提出等に困難を感じる場合は、担当教員や所属部局の学務関係係に申し出て下さい。

【課外活動】

課外活動の制限については、決定次第、大学公式 HP 等にてお知らせします。

(別紙 1)

11/11/2019

11/11/2019

[illegible]

令和4年6月7日

学 生 各 位

岐阜大学副学長（教育・学生支援担当）

岐阜大学教育推進・学生支援機構長

山 田 敏 弘

学内におけるマスク着用について

岐阜県では、5月30日に『「ウィズ・コロナ」総合対策の実施について』(<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/covid19/225854.html>)として、新型コロナウイルス感染症に関する情報が発出され、その中でマスク着用に関する考え方が示されました。本学ではこれに基づき、学内におけるマスク着用について、以下のとおり取扱うこととします。

<本部地区>

- 屋内では人との距離、会話の有無にかかわらずマスクを着用してください。
- 屋外で人との距離が2 m以上確保できる場合は、マスク着用は不要とします。
- 屋外で人との距離が2 m以上確保できない場合でも会話がなければ、マスク着用は不要とします。

<医学部・病院地区（看護学科含む）>

- 屋内外、人との距離、会話の有無にかかわらずマスクを着用してください。

ただし、これから夏場を迎えるにあたり、本部地区、医学部・病院地区いずれも熱中症リスクのある場面ではマスクを外すことを推奨します。また、スポーツ演習の講義中は、屋外の運動場に限らず、プールや屋内の体育館を含めて、マスクの着用は不要とします。ただし、人との距離、不要な会話については十分に留意願います。課外活動については、方針を別途お知らせします。

公共交通機関の利用者については、車内、待ち時間ともに、屋内と同様の取り扱いとし、人との距離、会話の有無にかかわらずマスクを着用してください。

なお、感染事例が多く見受けられる「5つの場面」では、引き続き気を緩めることなく「基本的感染防止対策」の徹底を継続してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 飲酒を伴う懇親会等（注意力が低下、大声になりやすい）・ 大人数や長時間の飲食（2次会・3次会、深夜のはしご酒等）・ マスクなしでの会話（車やバスでの移動の際も要注意）・ 狭い空間での共同生活（寮の部屋やトイレなど共用部分に注意）・ 居場所の切り替わり（休憩室、更衣室等は要注意） |
|---|

（次ページに続きます。）

(前ページからの続きです。)

○基本的感染防止対策

- ・マスク着用 (不織布マスクで隙間なくフィット)
- ・手指衛生 (頻繁な手洗い、消毒)
- ・密回避 (密閉・密集・密接のどれか一つでも回避)
- ・こまめに換気 (換気扇の常時稼働や窓・扉の開放による1時間に2回以上の換気)
- ・体調管理 (体調不良時は出勤・出張・通学・部活・旅行・レジャーを含む全ての行動をストップし、医療機関を受診)

※のどの痛みや発熱など、少しでも体調が悪い場合は、必ず所属部局の学務担当係及び保健管理センターに連絡し、医療機関を受診するか、自宅で療養してください。欠席中の修学については、配慮を受けられますので、無理して出校したり、学外での実習等に参加したりしないでください。

※3回目のコロナウイルスワクチン接種を6月29日(水)および7月1日(金)の2日間設けます。3回目の接種券を持っている学生が対象となります。自治体が設置するワクチン接種会場が減少している状況での貴重な機会となりますので、該当の学生は接種を検討ください。詳細はおってお知らせします。



医学部・病院地区（看護学科含む）の考え方は、赤い線で囲んだ部分です。